

平成 30 年(2018 年)11 月 9 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 久保康子

## 平成30年度(2018 年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組について

秋冷の候、保護者のみなさまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4月17日に実施しました6年の「全国学力・学習状況調査」結果分析を行いました。調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで良い・悪いを判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取り組みを進めてまいります。

以下に、今回の結果分析から見えてきた「プラスの面○」「マイナスの面●」および「課題克服に向けての取組」をまとめましたので、ご家庭でも話題にさせていただけますよう、よろしくお願い致します。

なお、豊能町教育委員会による町全体の分析結果は、本町のHPにて公表されています。また全国学力・学習状況調査の問題・調査用紙やその分析結果は、国立教育政策研究所のHPで公表されています。それぞれご覧ください。

本町のHP <http://www.town.toyono.osaka.jp/>

国立教育政策研究所のHP <http://www.nier.go.jp/>

### 1. 学力状況調査の結果から

学力状況調査の結果は、国語・算数・理科とも全国平均より上回っており、概ね良好でした。しかし、更なる努力が必要な項目もありました。

**国語A** 【正答率 本校 71% 府 68% 全国 70.7%】 府および全国をわずかに上回った。

○選択問題「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の正答率が高く、概ね府・全国を大きく上回っている。

○全国の正答率が低い「敬語問題」は、よくできている。

●選択問題であっても、無解答率が全国より上回るものがある。

●短答式の問題の正解率が低い。

●「言語についての知識・理解・技能」の問題解答が府および全国を下回っているものが少な

くない。

●漢字の正答率がよくない。

**国語B** 【正答率 本校 56% 府 52% 全国 54.7%】 府および全国をわずかに上回った。

○選択問題の正答率が高く、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」といった項目も概ね府・全国を大きく上回っている。

●記述式の問題は、誤答率や無解答率が高くなっている。

●本校の正答率は、問題の内容ではなく、問題の形式に大きく左右される傾向があると思われる。

#### 《課題克服に向けての取組》

◎敬語については、学校全体が意識して取り組んでいることが、成果となって表れていると思われる。今後も学校全体での指導を続けていく。

◎漢字学習については、日々の学習方法を見直す必要がある。漢字を活用しながら自分の考えを書くなど生活に根ざした学習を通して、漢字への理解の定着を目指していきたい。

◎問題に対する「無解答」を克服するために、長文や少し難解問題に試行錯誤しながらでも取り組もうとする意欲や態度を、日々の学習の中で育てていく。

**算数A** 【正答率 本校 69% 府 63% 全国 63.5%】 概ね府・全国を上回っている。

○全国の正答率が低い「単体量あたりの大きさを求める問題」は、正答率が高い。

●無解答率が全国よりも上回る。

●「折れ線グラフの変化の特徴を読み取る問題」や「180度の角を理解する問題」の正答率が低い。

**算数B** 【正答率 本校 58% 府 51% 全国 51.5%】 概ね府・全国を上回っている。

○「計算領域に関する問題」は、文章量や情報量の多い問題であっても、全国より正答率が高い。

●記述式の問題は、全国よりも無解答率が高い。十分に習熟しきれていない問題に対して苦手意識があるようだ。

●「情報とグラフを関連付け変化を読み取る」問題の正答率が低い。

#### 《課題克服に向けての取組》

◎算数科において基本的なグラフの技能を身につけることが必要である。また、理科や社会科において、グラフと情報を関連付けた読み取りを意識した指導を行う。

◎算数の各単元に対して十分な習熟をはかると共に、一方で、問題処理能力を育てていくことを意識したい。

**理科** [正答率 本校 70% 府 57% 全国 60.3%] 府および全国平均を大きく上回った。

- 知識を問う問題は、どれも正答率が高い。
- 全国的に正答率が低い「電流・回路」の単元はよくできている。(本校 72% 全国 53%)
- 記述式問題は2問だけであったが、いずれも正答率が低い。
- 食塩水の全体の重さを答える問題に課題が見られた。

#### 《課題克服に向けての取組》

- ◎課題を見つけて筋道を立てて考え、求め方、理由などを言葉で表現する力をつける。
- ◎実験結果をもとに考察する力をつけ、学習したことを文章でまとめる機会をより多くつくる。
- ◎複数の文章や資料から必要な情報を読み取って説明する力をつける。

## 2. 学習状況調査の結果から

子どもたちの生活や家庭学習の様子、授業に対する意識の調査結果から、次のような特徴が見られました。また、それぞれ考えられる要因を考察しました。

#### 肯定的な意見が多かった項目

- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」  
→ 調査結果が全国を大きく上回ったことから、算数の授業に対して肯定的にとらえているといえる。
- 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。」  
→ 自然の中に立地している学校のよさが生かされている。これからも「とよの」を愛する心を育てていきたい。
- 「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。」  
→ 地域サポーターとの活動や学習の効果を反映している。特にボランティア活動にたいして肯定的な意見が多いことは、これからの時代を支えていく上で非常に頼もしいと感じている。

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」  
→ 子どもたちが、教職員の言葉を素直に受け入れていることがわかる。また、子どもと教職員との関係が良好であると考えられる。
- 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」  
→ 教室の仲間と「ともに学ぶ」意識が高いことがわかる。

#### 肯定的な意見の少なかった項目

- 「自分にはよいところがあると思いますか。」  
→ 生活の中で達成感、自己有用感を味わえる機会が少ない。
- 「学校のきまりを守っていますか。」  
→ 学校生活におけるルールの必然性について深く考えていない。また、守っていると考える基準が個人で異なり、自己に厳しい判断をしている点も考えられる。
- 「朝食を毎日食べていますか。」「毎日同じくらいの時刻に寝起きしていますか。」  
→ 起床時刻や就寝時刻が遅く、時間的余裕がないことが考えられる。
- 「理科の勉強は好きですか。」  
→ 学ぶ楽しさがあまり実感できていないと思われる。

#### 《課題克服に向けての取組》

- ◎クラスでの集団づくりや異年齢との交流を積極的に展開していく中で、「認めてもらった」「感謝された」という経験を少しでも多く積んでいけるようにする。自尊感情を高めるとともに相手の立場も考えられる心を養っていけるよう実践していく。
- ◎「学校生活のルール」に関しては、「なぜそういったきまりがあるのか」等ルールの必然性や公共・公平に対して共に考え、規範意識を高めていく。
- ◎知識の習得だけに留まらず、子どもたちが「ともに学び・活動する喜び・学ぶ楽しさ」を味わえる授業を心がける。
- ◎外部講師による「睡眠」に関する学習や、豊能町栄養教諭による食育授業などを通して、規則正しい生活の大切さを知り、生活リズムを見直し・改善していけるような取組を日常的に取り入れていくようにする。